

オホーツクの風

平成30年3月30日(金) 0021号

発行所
北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局
北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

北見赤十字病院 初期臨床研修医7名 修了証書を授与

平成30年3月1日午前9時、北見赤十字病院・大会議室(北館3階)で平成29年度・北見赤十字病院・初期臨床研修医7名への修了証書の授与式が挙行された。
会から代表他3名の役員が招かれて参列した。
平成28年4月、



全国各地からマッチングで北見赤十字病院に招聘されてから2年間、荒川副院長(臨床研修プログラム責任者)が組み上げた公式プログラムに従う、厳しくも温かい研修の日々であった。
吉田院長から正面に着席した初期研修医を修了した一人一人

に修了証書が授与された。
人生には良い時と、悪い時がある。良いときはどうしてもし傲慢になるので特に気をつけ、悪いときははくさらず、患者目線で患者に寄り添う医師であって欲しいとご自分の経験を交えて、吉田院長は修了研修医にはなむけの祝辞を述べた。
荒川副院長は当院をふるさとと思い、患者さんのために何が出来るかを考える医師になって欲しいと激励した。



通常総会開催

来賓に吉田院長

平成30年度(第9回) 通常総会を開催
平成30年3月5日午後1時30分から北見赤十字病院の大会議室(北館3階)をお借りし、本会の挨拶をし、来賓の吉

田院長を紹介した。支援する会には日頃大変お世話になっており、病院としても有り難く思っていると丁寧なおことは冒頭に戴いた。
昨年11月、日赤の全国病院長会議で、支援する会が継続的に主催している、研修医のイベント「北見での思い出づくりの集い」の事を発表した。

出席の皆さんから珍しいケースと高い評価を戴き、喜んで病院長の近況を話して挨拶を結んだ。
当会の代表が議長になり通常総会の議事の審議に入った。1号議案、平成29年度・事業報告から5号議案まで、原案通り可決し、午後2時40分に総会は予定通り終了した。



認知症看護認定看護師 福島 恵美子さん わかりやすく解説

「知っておきたい認知症」

平成30年度
総会記念
講演会

平成30年3月5日(月)、当会の通常総会終了後午後3時から北見赤十字病院・大会議室(北館3階)で平成30年度総会記念講演会を開催しました。
『「知っておきたい認知症の知識」〜誰かのために 自分のため』と題し、講師は北見赤十字病院精神保健対策室・認知症看護認定看護師・福島恵美子さんです。
そのテープ起こし生原稿を基に当方が要旨を編集。話し言葉を箇条書きにしたり、紙面の都合で内容を割愛した。不適切な記述が有ると思いますがご了承願います。(逢坂)

日本の認知症の患者さんは、2012年の時点で約462万人。65歳以上の約15%と推計されています。認知症の患者は増え続けており、2025年には約700万人になると推計され、まさに国民病とも言えるほど身近な病気です。

そこで北見赤十字病院の認知症看護認定看護師・福島恵美子さんを講師に『「知っておきたい認知症」〜誰かのために 自分のために』をテーマに講演をお願いしました。

ここで福島講師のプロフィールを簡単に

- ▽平成2年・網走市立看護高等専修学校卒業後、八戸市立高等看護学院卒業
- ▽平成5年・北見赤十字病院に入社
- ▽平成17年・看護係長
- ▽平成25年・日本赤十字看護大学、認定看護師教育課程、認知症看護コース修了
- ▽平成26年・認知症看護認定看護師資格取得
- ▽平成29年・精神保健対策推進室に異動、5市町の認知症初期集中支援チームで活躍中です。それでは講師にバトン



を紹介いたします。
皆さんこんにちは。私は、認知症看護認定看護師の福島と申します。
私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

今日は90人余りの人が聴講にいらしてください。感じています。主催者から認知症のお話を聞いて戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。
始めに認知症の基本的な概念です。認知症は病名ではなく症状と言った方が適切と考えます。様々な原因で脳が病気になる、認知機能が低下し、それが原因で日常生活に支障をきたす状態です。認知機能が低下しても日常生活に支障が出ていなければ、それは認知症と診断されません。これはきちんとした国際的診断基準があります。

認知症の症状

認知症の症状は大きく分けて2種類あります。簡単に言うと、脳の細胞が死んでしまったり認知症の症状が起きます(中核症状)が現れます。もう一つはそれに付随して起こる(行動・心理症状)とがあります。

中核症状 物忘れによる(記憶障害)、人や物や場所、時間の感覚が解らなくなる(見当識障害)、(理解判断力の障害)とか、(失認・失行)などがあります。

行動・心理症状 中核症状が基にならなければ、症状の

今日はその方の性格や健康状態、おかれていた環境や心理状態が加わって出てくる症状です。
不安や焦燥、いらした感じ、幻覚、妄想、徘徊など、認知症で介護者が一番悩まされているのが、この行動・心理症状になります。認知症という徘徊を連想しますが中核症状ではなく、行動・心理症状になります。

でも認知症と診断されても一生この行動・心理症状が出ない方もいます。それはおかれていた環境がその人にとって居心地がよかったり、穏やかな気持ちで過ごせたり、ケアする人のケアの仕方・接し方によっても、その人が居心地がいいと思えば、行動・心理症状は出てこないことになります。

具体的な対応 まず見守る。本人や他の人に気づかないように、一定の距離を保ち、さりげなく、笑顔を忘れない。▽間違ったことや失敗をしてもとがめない。▽本人が出来ることは自分でやらう。▽話しを聞くときは真剣に聞く。

認知症のあるかたへの接し方

接し方

- ▽自尊心を傷つけない。
- ▽子供扱いしない。
- ▽できるだけ楽しく、笑顔を忘れない。
- ▽間違ったことや失敗をしてもとがめない。
- ▽本人が出来ることは自分でやらう。
- ▽話しを聞くときは真剣に聞く。
- 具体的な対応 まず見守る。本人や他の人に気づかないように、一定の距離を保ち、さりげなく、笑顔を忘れない。

精神安定剤

副代表 谷川 勝男

という薬のことではない。

出会った人たちが、出会った物たち。が、気分を変えてくれて、

新たな気分の一
日、二カ月、一年にしてくるのなら、壮快な気分のままに快食・快眠の日々が約束される。満足が得られる。自己満足ほど、次へのエネルギーとなるものもない。
次——があれば、気持ちのうさも晴らされる。

◆ ◆ ◆
二月二十六日(月)に上京して、
三月四日(日)に北見に戻った。
そして五日(月)、支援する会の総会と講演会。福島恵美子さんの「認知症」についてのお話は、きわめて知的で論理的、一切の無駄が排

された展開は耳を傾けているだけで気持ちが洗われるようにさえ思われた。

命の(最期)や(看取り)がどんなことになるかの予想はつけられない。

◆ ◆ ◆
上京したときの定宿は大井町駅前のアワーズイン阪急。チエックイン済ませると、わが家に足を踏み入れたような安堵でほっとさせられる。

◆ ◆ ◆
それから歌舞伎町を歩き、神保町を歩き、秋葉原を歩く。そして文庫本を二

千円で二十冊、池波正太郎と田辺聖子の本が帰りの荷を重くした。

しかしその(重さ)は気持ちの(うさ)を吹き払ってくれる風でもあるから。

◆ ◆ ◆
池波正太郎がまた天才、信長や秀吉や家康や真田幸村を解して小説を組み立ててゆく、その達意の文章は繰り返し読んで飽きない。
よい本はいつ、どこを開いて数ページ、数行読むだけで爽やかで、香しい。

◆ ◆ ◆
娘楓子の結婚式は三月三日(土)のこ

とだった。

新横浜の式場での四時間は、厳粛とサプライズのあい間に(笑い)をはさんで楽しませてくれた。

◆ ◆ ◆
家族の幸せな様子がまた気持ちの張りを新たにしてくれてうさを晴らしてくれ

◆ ◆ ◆
四十年前の卒業生ゆかりさんにお会いしたのは、三月一日(木)のことだった。

◆ ◆ ◆
それがお決まりのコース、しめて四時間二人で過ごした、それもいつもの通

り。

百数十人が出席の結婚式の四時間が、あつという間であつたのは、わが娘の結婚式であつたから。

◆ ◆ ◆
ゆかりさんが結婚された頃、夫である人は東大医学部に所属されていて救命救急の現場で寝る間もなしの手術に明け暮れていた。

◆ ◆ ◆
結婚を期に(研究)の場に戻りたいと、准教授になられていたのだが、一年前、私大関連の新病院に教授として移られて今日に至っている、というのが今回知らされたことだった。

◆ ◆ ◆
支援する会も九年、改めて医療現場のことで知りたいと思うあれこれ、ゆかりさんへの(質問責め)からおしゃべりは始まった。



研修の思い出づく

りのお手伝いと私達の感謝の心を伝えたく、臨床研修医の皆さんを招き「北見での思い出づくりの集い」を平成27年から野付牛公園で毎年開催しています。

平成28年7月31日(日)に第3回、平成29年7月30日(日)に第4回をそれぞれ行った。

◆ ◆ ◆
その時、炭焼きコンロを囲んで北見式焼き肉とオホーツクビールで楽しく交歓した幾人かを含む臨床研修医7名が吉田院長から修了証書を授与された。

◆ ◆ ◆
参加した会員は我が家族の事のように嬉しく心の中で祝福の拍手を送つたに違いない。
今回修了した一人は北見赤十字病院での勤務が決まっている。北見市民として、誠に嬉しい授与式であった。(逢坂記)